

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名

生涯学習課

件名	「田澤義鋪」を紹介する偉人マンガが完成しました
アピールポイント	マンガふるさとの偉人「田澤義鋪～鹿島が生んだ現代日本の設計者～」が完成しました。 このマンガは、B&G財団の助成を受け、令和3年度事業として制作に取り組んでいたもので、合計2000部を制作しました。 今後は、鹿島市のふるさと教育の一環で、市内の小中学校・高校の学校教育や生涯学習の場を中心に活用していきます。
説明	<ul style="list-style-type: none"><li>●体裁 B5文庫版 ソフトカバー 全128ページ（カラー15ページ） 関連年表・関連事項紹介ページあり</li><li>●制作部数 2,000部</li><li>●本の内容 鹿島市出身の田澤義鋪が取り組んできた、青年団運動・労働問題・政治教育・選挙粛正・女性の政治参加などについて、分かりやすくマンガで紹介しています。</li><li>●発行編集 発行：鹿島市 編集：（一財）鹿島市民立生涯学習・文化振興財団</li><li>●特記事項 5月8日（日）の第20回エイブル祭りのオープニングセレモニーとして、マンガの出版の記念イベント「講演&amp;パネルディスカッション」が開催されます。 詳しくは、（一財）鹿島市民立生涯学習・文化振興財団（63-2138）にお問合せ下さい。</li></ul>
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

## 本件に関する問合せ先

所属	生涯学習課
氏名	社会教育・文化係 江島賢一
TEL	0954-63-2125
FAX	0954-63-2313
Mail	<a href="mailto:shougai09@city.saga-kashima.lg.jp">shougai09@city.saga-kashima.lg.jp</a>



マンガふるさとの偉人  
たざわよしはる  
**田澤義鋪**  
かしま げんたい せつけいしや  
鹿島が生んだ現代日本の設計者



**田澤義鋪が生きた時代**

1885 (明治18) 年  
■内閣制度ができる  
内閣制度が始まり、第一次伊藤博文内閣が成立する。

1889 (明治22) 年  
■大日本帝国憲法発布  
伊藤博文が草案をつくり、天皇が国民にあたえる形で憲法が発布された。

1894 (明治27) 年  
■日清戦争が始まる  
日本と清との間で起こった戦争。翌年、下関条約が結ばれた。

1904 (明治37) 年  
■日露戦争が始まる  
日本とロシアとの間で起こった戦争。翌年、ポーツマス条約が結ばれた。

1918 (大正7) 年  
■原敬の政党内閣  
原敬は、3人の大員以外はすべて衆議院第一党の立憲政友会の議員で構成した本格的な政党内閣を組織した。

1925 (大正14) 年  
■普通選挙法公布

**鹿島藩の風土**

現在の鹿島市は、江戸時代には佐賀藩の支藩である鹿島藩が置かれた場所であった。歴代藩主が日本や中国から幅広く書物を集めたことで、まれに見る文庫がそろった藩となり、藩上の政治教育の場としての役割も果たしていた。とくに代藩主の夫人である篤姫は、6歳で藩主となった海島直樹に厳格な政治教育を施し、政治家としての心得を教えた。篤姫に学んだ直樹は藩校を充実にし、藩主に政治教育を行なったことで、鹿島藩には教育を行なう場としての風土が根付いた。幕末には藩力な藩へと成長していった。

**鹿島での出会い**

少年時代を鹿島で過ごした田澤には、生涯にもなった二人の人物との出会いがあった。ひとりには小学校時代に会った田中赤門で、もうひとりには高等学校で出会った後藤文夫である。田中とは中学校時代に自分たちの企図を、現鹿島高等学校図書室の源流となる。そして、高校生がポスターの祝賀で歓迎を受けて進学処分を受けた際、きかけて処分を解いたのが後藤である。また、田澤は出ある中野が危から多くを学び、その後の人生に活かして

**田澤義鋪資料館**

田澤義鋪は1885 (明治18) 年に鹿島藩の奥門に治った現在の旭ヶ岡公園近くで生まれた。父の厳しいしつけと母と姉の愛情をたっぷり受けた田澤は向学心にあふれ、わずか4歳で尋常立教小学校 (現在の鹿島小学校) に入学。その後、鹿島中学校 (現在の鹿島高校) と第五高等学校 (現在の熊本大学) を経て東京帝国大学 (現在の東京大学) 法学部に入学生。大学を卒業すると内務省に入り、静岡県安倍郡の郡長として社会生活をスタートする。

郡長とは県知事から任命された役人で、県と町村をつなぐ重要な立場である。この時期、田澤は地域の青年らと出会うこととで、その後の人生の方向性が開けていく。地方の青年らも多くは、義務教育の6年を過ごしたの学校へは進まず、家業を手伝っていた。田澤は、このような人材こそ、これからの日本を築くために必要で、教育の場が大事だと思うようになっていった。

田澤記念館  
義鋪の生家跡に1984年に建てられる。義鋪の自筆和歌や著作など、ゆかりの資料が展示されている。

鹿島高校赤門  
鹿島高校の赤門は鹿島藩の校門として残されている。

そこで町や郡を自分たちの力で運営していくことの大切さを考え、青年団を結成10織り上げた。さらに、静岡から東京の内務省に戻ったのちも、各地で青年団を振興する講習会を開き、全国の青年団を育成する第一人者となる。

田澤は、明治から大正、昭和と世界を善き込んだ激動の社会を、政治改革のためにかき進んでいく。

